

## 第4章 対象事業の実施予定地及びその周辺地域の概況

事業予定地は図 4-1 に示すとおり、名古屋市港区及び南区に位置し、現在は、河川（大江川）であり、その周囲は工場や運輸施設が立地する地域となっている。

事業予定地周辺の主要な道路としては、名古屋高速 4 号東海線、名古屋高速 3 号大高線、一般国道 23 号及び 247 号、主要県道名古屋半田線及び諸輪名古屋線等が通っており、鉄道は名鉄常滑線及び築港線、臨海鉄道東港線及び東築線が通っている。

事業予定地周辺の施設としては、東側に大江川緑地があり、市民の憩いの場となっている。

事業予定地及びその周辺地域の概況を把握する範囲は、工事中の大気質の影響と街区を考慮して、表 4-1 及び図 4-2 に示す区域（以下、「調査地域」という。）を設定した。

表 4-1 調査地域

区名	学区名
港区	東築地学区の一部
南区	星崎学区の一部、大生学区の一部、宝学区の一部、宝南学区の一部、白水学区、千鳥学区の一部、柴田学区

以降は、この調査地域を中心に、事業予定地周辺の地域特性を「自然的状況」及び「社会的状況」に分けて整理した。

資料の整理に当たっては、町（大字）の区分ができるものについては町（大字）ごとに、区のデータしか得られないものについては区ごとに行った。

資料の収集は、令和元年 12 月末の時点で入手可能な最新の資料とした。

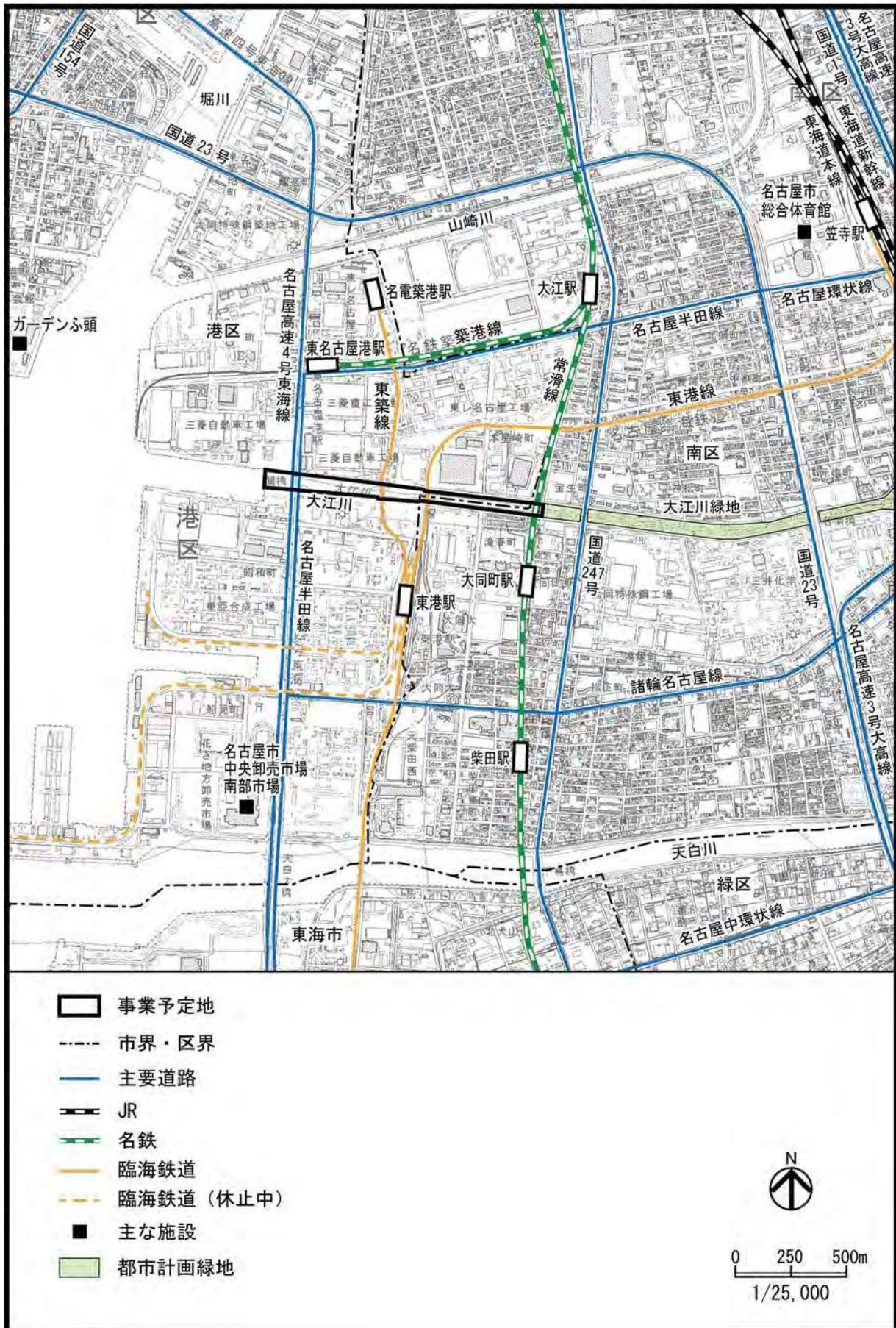


図 4-1 事業予定地とその周辺地域

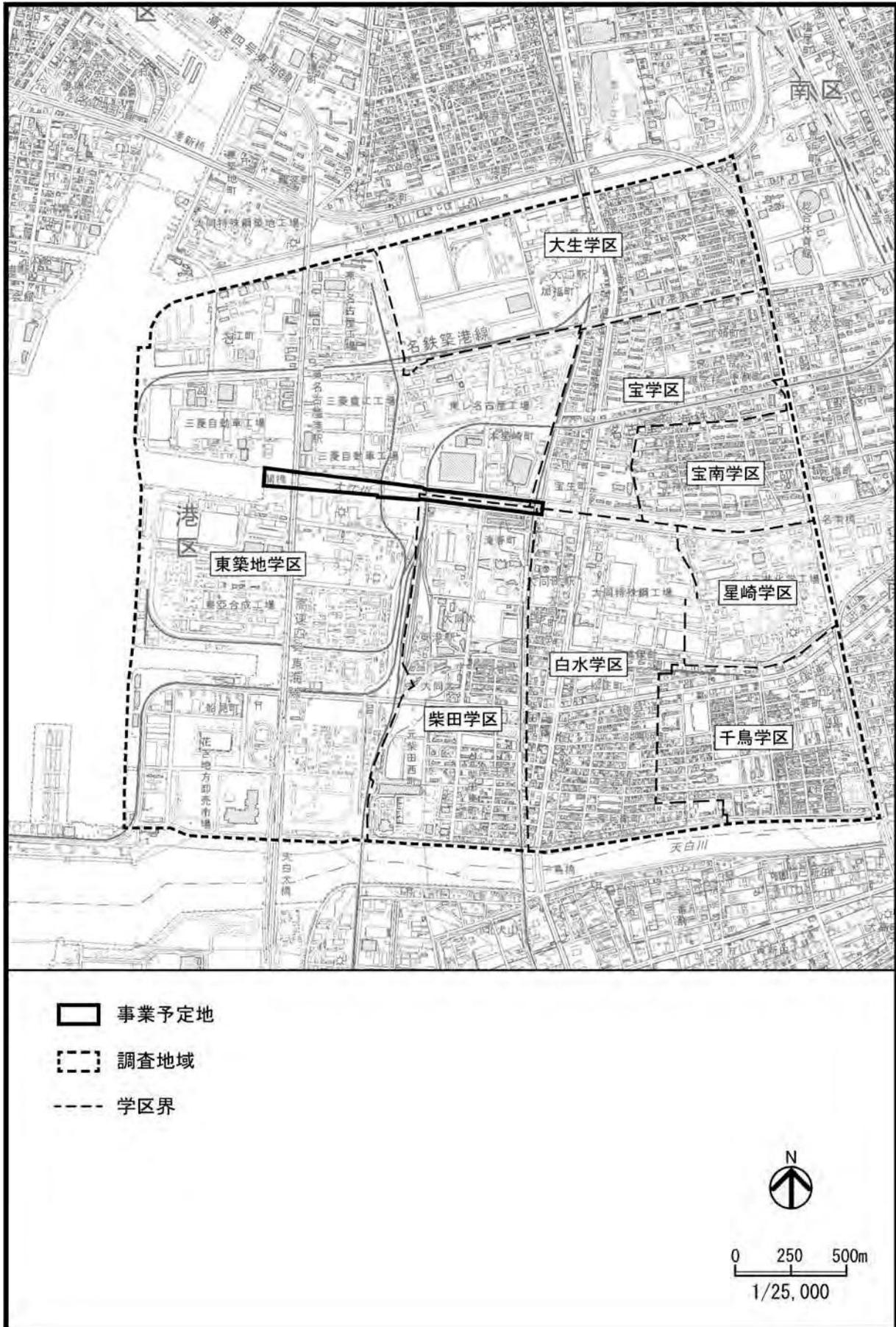


図 4-2 調査地域図

## 4-1 自然的状況

### (1) 地形・地質等の状況

#### ア 地形・地質

##### (ア) 地形

###### a 陸上

調査地域及びその周辺の地形は、図 4-1-1 に示すとおり、盛土地、干拓地等からなる低地である。

なお、大江川の変遷及び現状については、「第 2 章 2-2(2)ア大江川の変遷及び現状」(p. 2～3 参照) に示すとおりである。

また、名古屋港の埋立完成年の状況は、図 4-1-2 に示すとおりである。調査地域の埋立地部分は、明治 34 年から埋立てが行われた区域であり、事業予定地の周辺に位置する大江ふ頭及び昭和ふ頭は、明治 34 年から昭和 56 年にかけて埋立てが行われた区域である。なお、事業予定地は、将来計画の区域となっている。

###### b 海底

調査地域及びその周辺の海底の地形は図 4-1-3 に示すとおりであり、事業予定地付近の海域の水深は 6～10m 程度である。

###### c 川底

大江川の河口付近の川底の地形は図 4-1-3 に示すとおりであり、水深は 0.5～8m 程度である。調査地域及びその周辺の山崎川河口、天白川河口及び昭和ふ頭と船見ふ頭の間には、干出浜が存在する。

##### (イ) 地質

###### a 陸上

調査地域及びその周辺の表層地質は、図 4-1-4 に示すとおり、埋立地、砂・泥を主とする層等からなる未固結堆積物である。

###### b 海底

調査地域及びその周辺の海底の地質は図 4-1-3 に示すとおりであり、調査地域及びその周辺の海底の地質は、泥及び細砂等である。

###### c 川底

事業予定地の位置する大江川の河口付近の川底の地質は、図 4-1-3 に示すとおりであり、泥及び細砂等である。

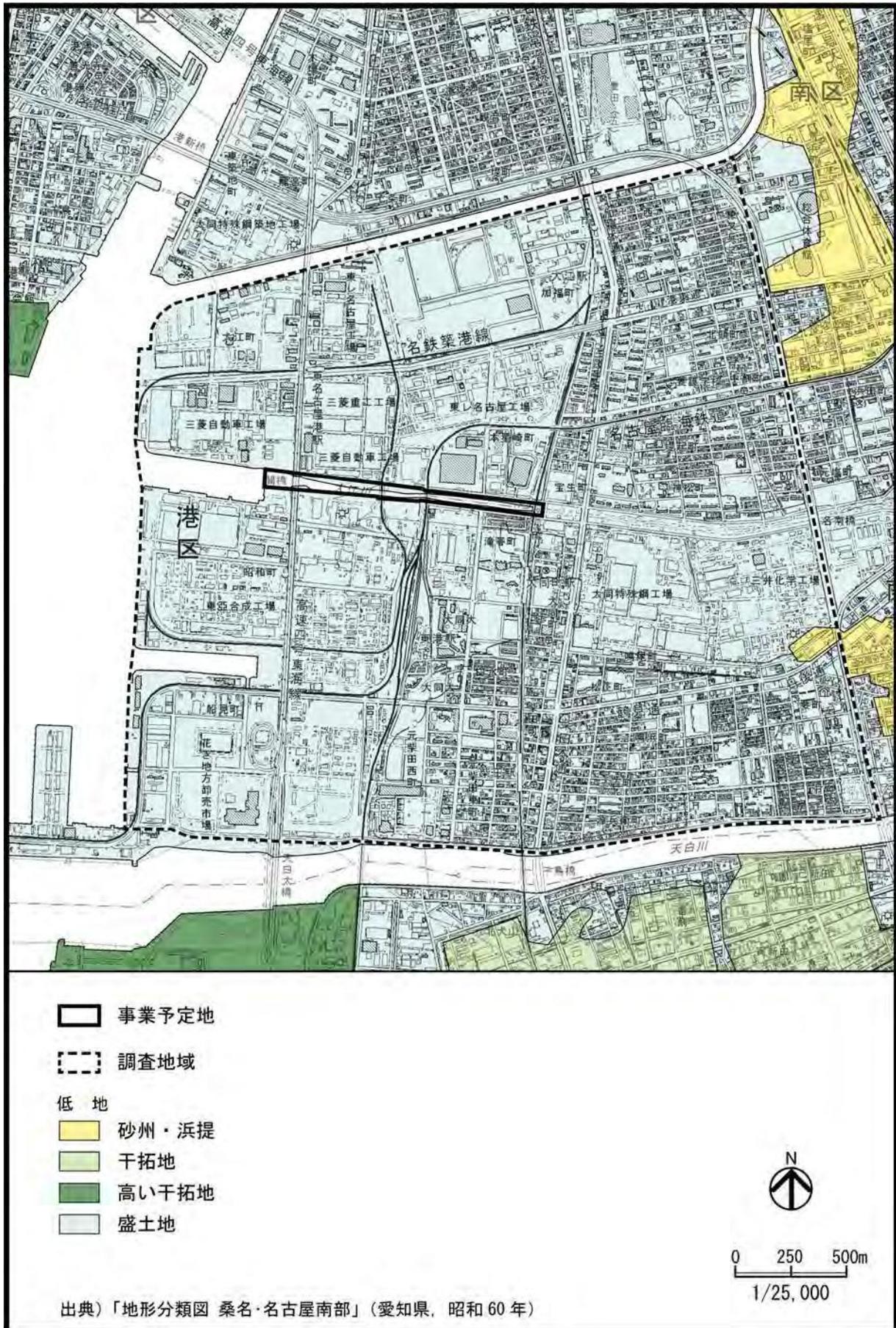


図 4-1-1 地形分類図



- 事業予定地
  - 調査地域
- |   |  |
|---|--|
| <p>埋立完成年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #d9ead3; margin-right: 5px;"></span> 明治34年～昭和26年<br/>(1901年～1951年)</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #f4cccc; margin-right: 5px;"></span> 昭和27年～昭和36年<br/>(1952年～1961年)</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #e6f2ff; margin-right: 5px;"></span> 昭和37年～昭和46年<br/>(1962年～1971年)</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #cce5ff; margin-right: 5px;"></span> 昭和47年～昭和56年<br/>(1972年～1981年)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #f4cccc; margin-right: 5px;"></span> 昭和57年～平成3年<br/>(1982年～1991年)</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #e6e6fa; margin-right: 5px;"></span> 平成4年～平成13年<br/>(1992年～2001年)</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #fff2cc; margin-right: 5px;"></span> 平成14年～現在<br/>(2002年～現在)</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #c6e0b4; margin-right: 5px;"></span> 埋立予定地</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #f4cccc; margin-right: 5px;"></span> 将来計画</li> </ul> |
|---|--|

注) 本図面は、出典資料に基づき、名古屋港のふ頭全体を示している。  
 出典)「立地状況と埋立の変遷」(名古屋港管理組合ウェブサイト)

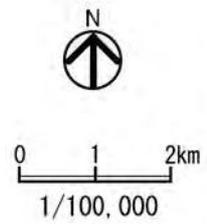
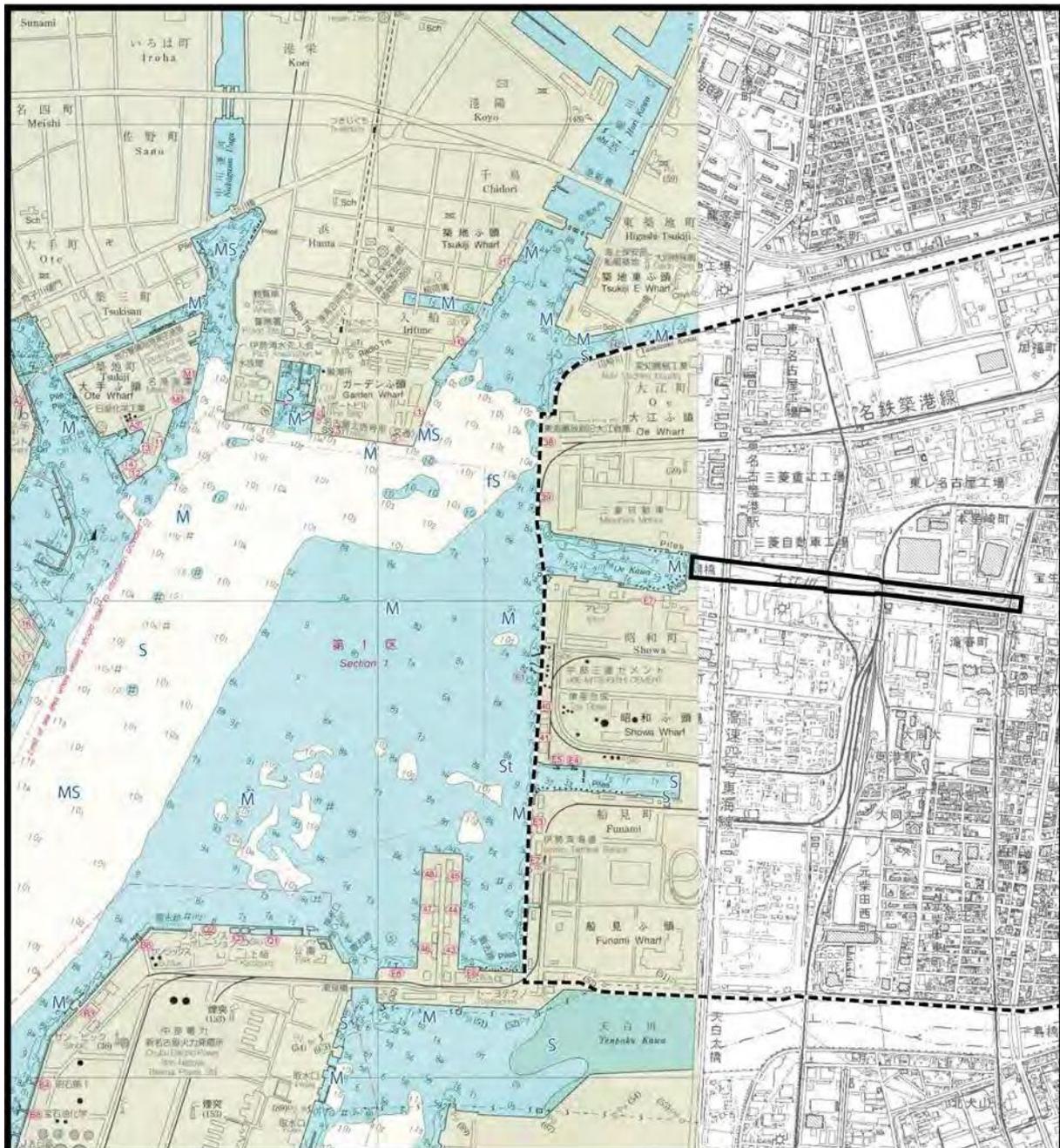


図 4-1-2 名古屋港の埋立完成年の状況



■ 事業予定地

⋯ 調査地域

■ 水深 10m より浅い場所

■ 水深 10m より浅い場所 (干出浜 (砂))

□ 水深 10m より深い場所

[底質]

M 泥

St 石

MS 砂混じりの泥

S 砂

fs 細砂

注) 1: 図内の数値は、水深を示す。

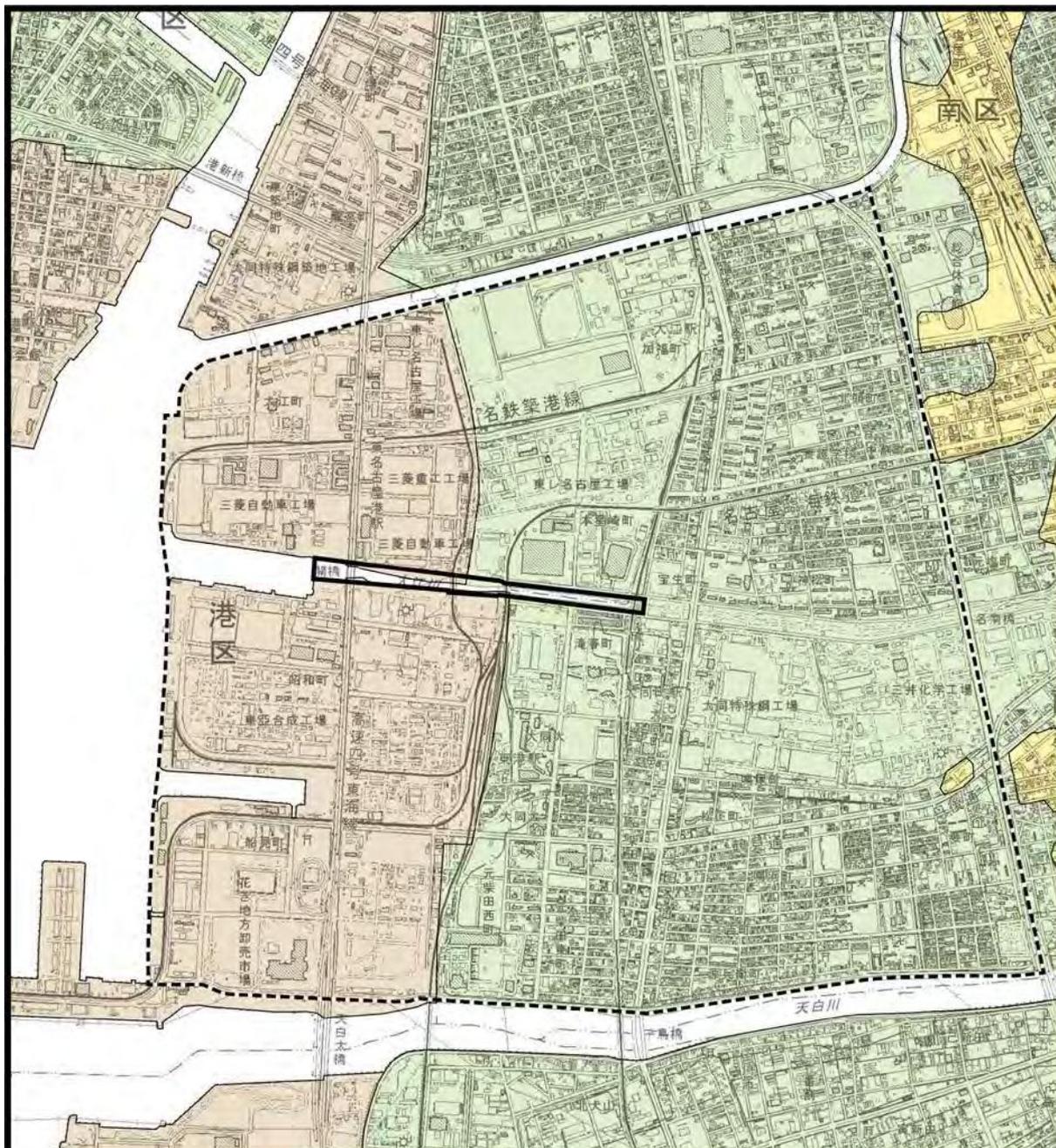
2: 本図面は、出典資料に基づき、調査地域 (本図面枠内) の情報を示している。

出典) 「W1055A 名古屋港北部」(海上保安庁, 平成 28 年)



0 250 500m  
1/25,000

図 4-1-3 海底の地形及び地質図



■ 事業予定地

⋯ 調査地域

未固結堆積物

■ 埋立地

■ 砂を主とする層

■ 砂・泥を主とする層



0 250 500m  
1/25,000

出典)「表層地質図 桑名・名古屋南部」(愛知県, 昭和60年)

図 4-1-4 表層地質図

#### (ウ) 干潟、藻場、砂浜

伊勢湾の海岸線の現状図は、図 4-1-5 に示すとおりである。調査地域周辺の海岸線は、人工海岸となっている。

「愛知県の自然環境」によると、調査地域周辺に藻場の記載はない。

「自然環境保全基礎調査（干潟調査）」によると、調査地域周辺に干潟の記載はない。

出典)「愛知県の自然環境」(愛知県, 昭和 60 年)

「自然環境保全基礎調査（干潟調査）」(環境省ウェブサイト)



注) 本図面は、事業予定地周辺の海岸線の状況がわかるよう、縮尺を調整している。

出典)「伊勢湾環境データベース」

(国土交通省名古屋港湾空港技術調査事務所ウェブサイト)

図 4-1-5 海岸線の現状図 (伊勢湾)

## イ 地盤沈下

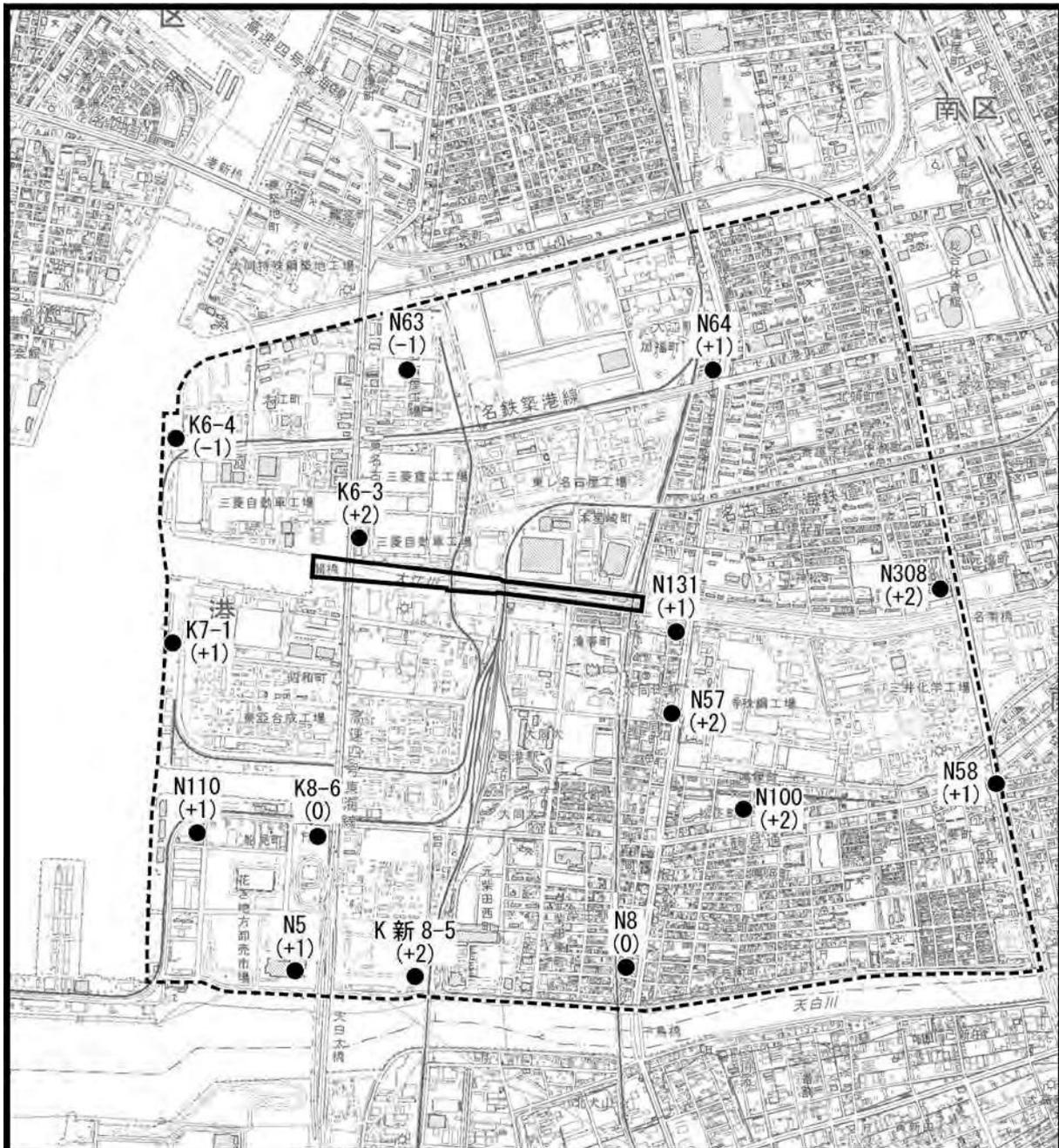
地盤沈下の状況は表 4-1-1 及び図 4-1-6 に示すとおりである。

調査地域には、名古屋港管理組合の水準点が 5 地点及び名古屋市的水準点が 10 地点ある。平成 30 年度の測量結果では、地盤沈下の目安とされている年間 1cm 以上の沈下はみられない。

表 4-1-1 水準点における年間沈下量の状況

管理機関	名古屋港管理組合					名古屋市									
水準点	K6-3	K6-4	K7-1	K新 8-5	K8-6	N5	N8	N57	N58	N63	N64	N100	N110	N131	N308
年間 沈下量 (mm)	+2	-1	+1	+2	0	+1	0	+2	+1	-1	+1	+2	+1	+1	+2

出典)「平成 30 年度 濃尾平野地域地盤沈下等量線図」(東海三県地盤沈下調査会, 令和元年)



■ 事業予定地

⋯ 調査地域

● 水準点

注) 1: ( ) 内の数値は、年間沈下量 (mm) を示す。

2: 図中の記号は、表 4-1-1 に対応する。

出典) 「平成 30 年度 濃尾平野地域地盤沈下等量線図」  
(東海三県地盤沈下調査会, 令和元年)



0 250 500m  
1/25,000

図 4-1-6 水準点配置図

## ウ 土壌等

要措置区域及び形質変更時要届出区域の状況は、表 4-1-2 に示すとおりである。

調査地域には、土壌汚染対策法に基づく要措置区域の指定が 2 箇所、形質変更時要届出区域の指定が 9 箇所、名古屋市環境保全条例に基づく措置管理区域が 1 箇所、形質変更時届出管理区域が 7 箇所ある。

なお、調査地域におけるダイオキシン類の調査は、平成 29 年に千鳥公園（南区天白町）で行われている。調査結果は 0.017pg-TEQ/g であり環境基準に適合している。

表 4-1-2(1) 要措置区域の状況（土壌汚染対策法）

指定番号	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	指定に係る特定有害物質の種類	指定年月日
指-118	南区鶴見通1丁目6番2の全部	502.47	ベンゼン	平成29年11月16日
指-146	港区船見町1番42の一部	300	四塩化炭素 シス-1,2-ジクロロエチレン テトラクロロエチレン トリクロロエチレン	令和元年9月5日

注) 令和元年12月17日現在

出典) 「土壌汚染対策法に基づく区域の指定」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-2(2) 形質変更時要届出区域の状況（土壌汚染対策法）

指定番号	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	分類	指定に係る特定有害物質の種類	指定年月日
指-20	港区本星崎町字南 3998 番 16 の一部 及び 3998 番 33 の一部	2,304.3 <del>1,904.3</del> 1,204.3	一般	六価クロム化合物 鉛及びその化合物 ふっ素及びその化合物	平成 22 年 9 月 15 日 一部解除 平成 25 年 2 月 20 日 一部解除 平成 26 年 8 月 29 日
指-48	港区大江町 1 番 5 の一部	<del>1,152.8</del> 952.8 400	埋管	鉛及びその化合物 砒素及びその化合物	平成 26 年 3 月 31 日 一部解除 平成 28 年 8 月 17 日 一部解除 平成 28 年 12 月 15 日
指-98	港区船見町 1 番 1 の一部	<del>3,104.6</del> <del>3,004.6</del> 3,104.6	埋管	テトラクロロエチレン 水銀及びその化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	平成 28 年 8 月 30 日 一部解除 平成 31 年 3 月 29 日 一部追加 令和元年 8 月 26 日
指-125	港区大江町 6 番 4 の一部	4,335	埋管	砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	平成 30 年 4 月 24 日
指-137	港区大江町 7 番 2 の一部	100	埋管	砒素及びその化合物	平成 31 年 3 月 12 日
指-141	港区昭和町 8 番の一部、12 番 15 の一部、 12 番 16 の一部及び 12 番 35 の一部	2,517.64	埋管	クロロエチレン シス-1,2-ジクロロエチレン 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	令和元年 6 月 14 日
指-147	港区船見町 1 番 42 の一部	13,600	埋管	水銀及びその化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物	令和元年 9 月 5 日
指-89	南区加福町 3 丁目 2 番 1 の一部	<del>2,677.5</del> <del>5,365.5</del> 1,879	一般	六価クロム化合物 砒素及びその化合物 鉛及びその化合物	平成 27 年 11 月 5 日 一部追加 平成 28 年 3 月 16 日 一部解除 平成 28 年 4 月 28 日
指-93	南区丹後通 2 丁目 1 番の一部	954	一般	ベンゼン ふっ素及びその化合物	平成 28 年 5 月 27 日

注) 令和元年 12 月末現在

出典) 「土壌汚染対策法に基づく区域の指定」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-2(3) 措置管理区域の状況（名古屋市環境保全条例）

指定番号	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	指定に係る特定有害物質の種類	指定年月日
管-157	南区鶴見通 3 丁目 3 番の一部	1,825	クロロエチレン 1,1-ジクロロエチレン シス-1,2-ジクロロエチレン ジクロロメタン テトラクロロエチレン 1,1,1-トリクロロエタン トリクロロエチレン	令和元年 6 月 26 日

注) 令和元年 12 月末現在

出典) 「名古屋市環境保全条例に基づく区域の指定」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-2(4) 形質変更時届出管理区域の状況（名古屋市環境保全条例）

指定 番号	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	分類	指定に係る特定有害物質の種類	指定年月日
管-7	港区大江町10番1の一部	67 82	埋管	鉛及びその化合物 砒素及びその化合物	平成25年7月30日 一部追加 平成28年7月14日
管-11	港区大江町10番5の一部	38.4	埋管	砒素及びその化合物	平成25年11月6日
管-48	港区大江町2番15の一部	1,719	埋管	六価クロム化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物	平成27年3月3日
管-60	港区大江町地内、昭和町地内及び 船見町地内	27,189	埋管	砒素及びその化合物	平成27年9月30日
管-95	港区大江町2番14の一部	4,160.5 4,360.5	埋管	六価クロム化合物 シアン化合物 鉛及びその化合物 ふっ素及びその化合物 シス-1,2-ジクロロエチレン	平成28年12月15日 一部追加 平成29年6月19日
管-170	港区昭和町14番28の一部	904.2	埋管	六価クロム化合物 水銀及びその化合物 砒素及びその化合物	令和元年11月6日
管-37	南区六条町4丁目78番の一部	65.98	一般	ふっ素及びその化合物	平成26年8月22日

注) 令和元年12月20日現在

出典) 「名古屋市環境保全条例に基づく区域の指定」(名古屋市ウェブサイト)

(2) 水環境の状況

ア 水象

(7) 海域における潮位

名古屋港の潮位は、表 4-1-3 及び図 4-1-7 に、名古屋港検潮所の位置は、図 4-1-8 に示すとおりである。

名古屋港の潮位は、名古屋港基準面 (N.P.) に対して平均水面 +1.40m、朔望平均満潮面 +2.61m、朔望平均干潮面 +0.04m であり、潮位差は 2.57m である。

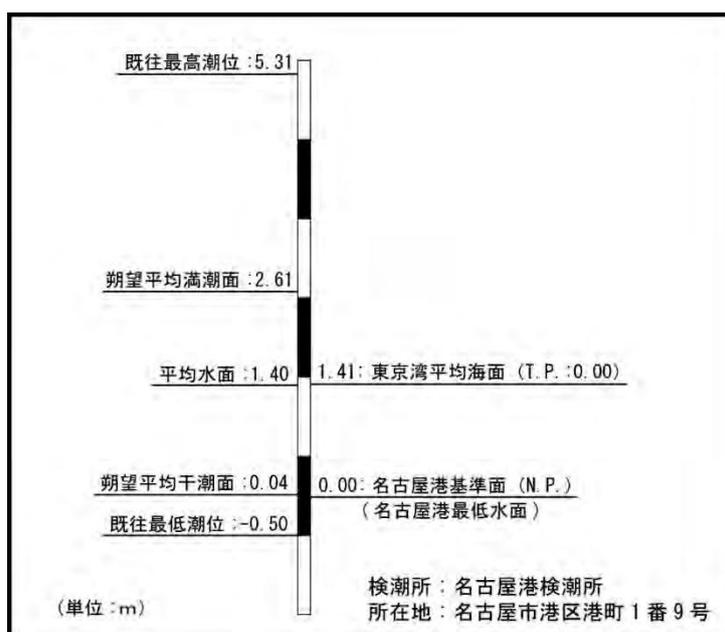
また、過去の既往最高潮位は +5.31m (昭和 34 年 9 月 26 日、伊勢湾台風)、既往最低潮位は -0.50m (平成 2 年 12 月 4 日) である。

なお、東京湾平均海面 (T.P.) は、名古屋港基準面の +1.41m となっている。

表 4-1-3 名古屋港の潮位

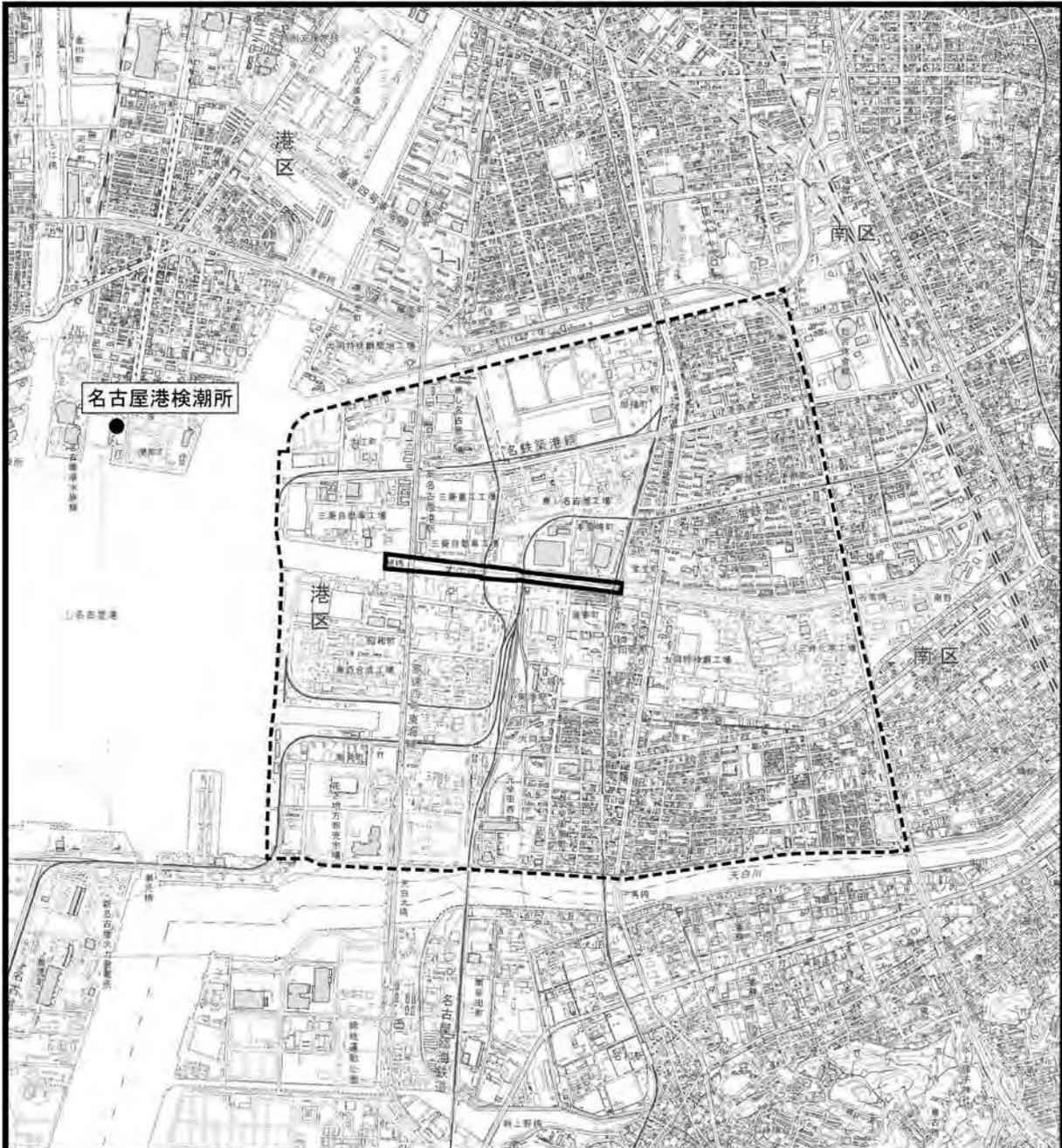
潮位種別	潮位 (m)	観測時	備考
朔望平均満潮面	2.61	昭和 23 年～昭和 31 年 観測平均	夏季 (5 月～10 月) : 2.71m 冬季 (11 月～4 月) : 2.52m
朔望平均干潮面	0.04	昭和 23 年～昭和 31 年 観測平均	夏季 (5 月～10 月) : 0.17m 冬季 (11 月～4 月) : -0.09m
平均水面	1.40	昭和 43 年 5 月～ 昭和 44 年 4 月	海上保安庁水路部決定
既往最高潮位	5.31	昭和 34 年 9 月 26 日	伊勢湾台風
既往最低潮位	-0.50	平成 2 年 12 月 4 日	—

出典)「名古屋港の潮位」(名古屋港管理組合ウェブサイト)



出典)「名古屋港の潮位」(名古屋港管理組合ウェブサイト)

図 4-1-7 名古屋港の潮位



■ 事業予定地

⋯ 調査地域

● 検潮所



0 350 700m

1/35,000

注) 本図面は、調査地域周辺の名古屋港検潮所の位置がわかるよう、縮尺を3万5千分の1としている。

図 4-1-8 名古屋港検潮所の位置

#### (イ) 海域における潮流

伊勢湾の上げ潮時及び下げ潮時の潮流は、図 4-1-9 に示すとおりである。

伊勢湾及び三河湾西部の潮流は、ほぼ地形に沿って流れている。上げ潮流は湾奥へ向かい、下げ潮流は湾口に向かって流れている。外海から湾内に向かう潮流は、伊良湖水道で、神島寄りを通過する流れは伊勢湾に向かい、伊良湖岬寄りを通過する流れは三河湾へ向かって流入する。

流速は、伊良湖岬寄りから中山水道を通過して三河湾へ向かう流れが強く、神島寄りから知多半島西岸沿いを通過して伊勢湾奥へ向かう流れは弱くなっている。

伊勢湾における潮流の主流部は、ほぼ知多半島の西岸に沿って流れ、湾奥に向かうに従って流速は次第に弱まっている。

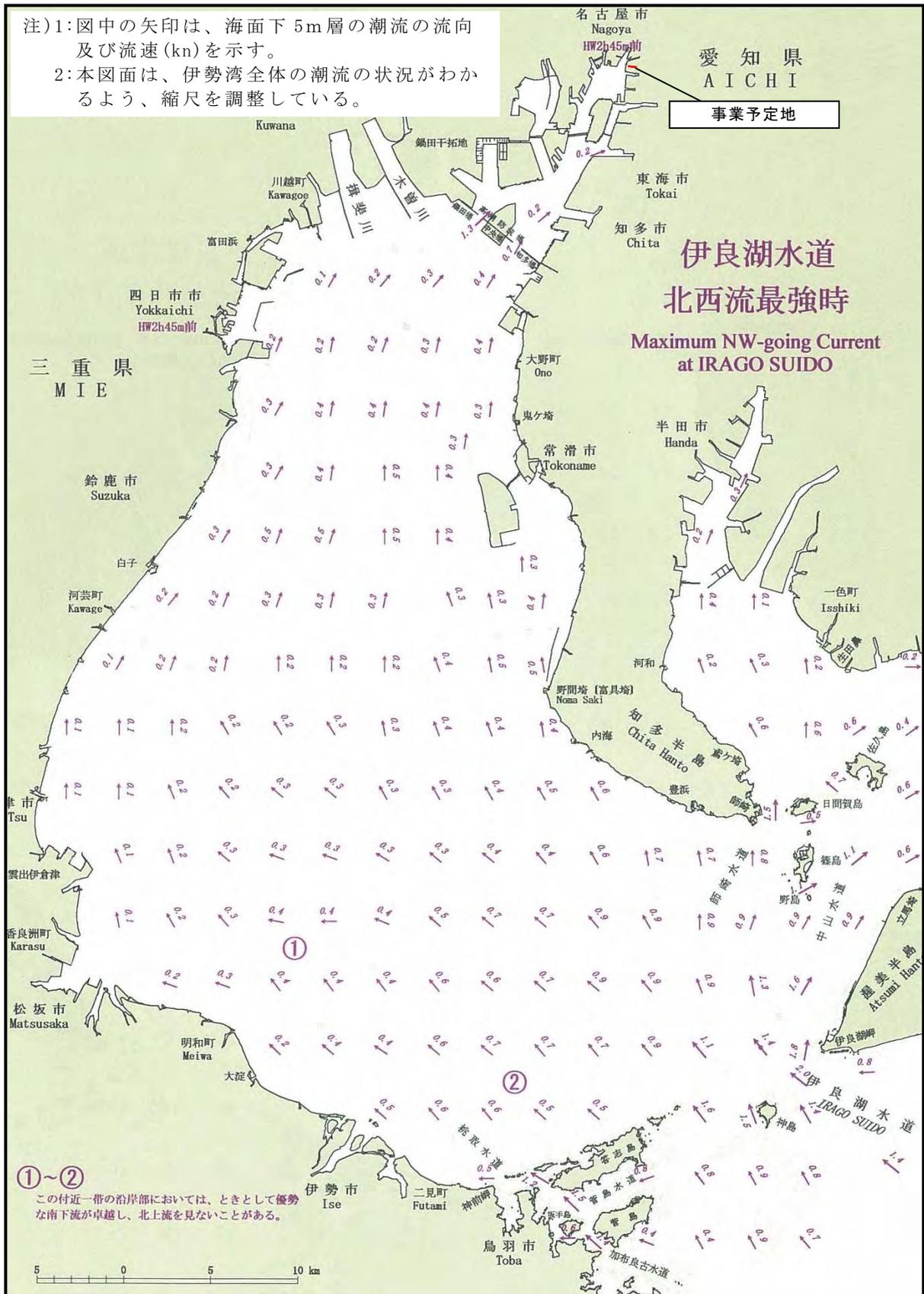
#### (ウ) 河川

調査地域及びその周辺の河川の状況は、図 4-1-10 に示すとおりである。

調査地域には、大江川が流れている。また、調査地域の北側には山崎川及び堀川が、南側には天白川が流れている。

なお、事業予定地は大江川に位置する。

注)1: 図中の矢印は、海面下 5m 層の潮流の流向及び流速(kn)を示す。  
 2: 本図面は、伊勢湾全体の潮流の状況がわかるよう、縮尺を調整している。



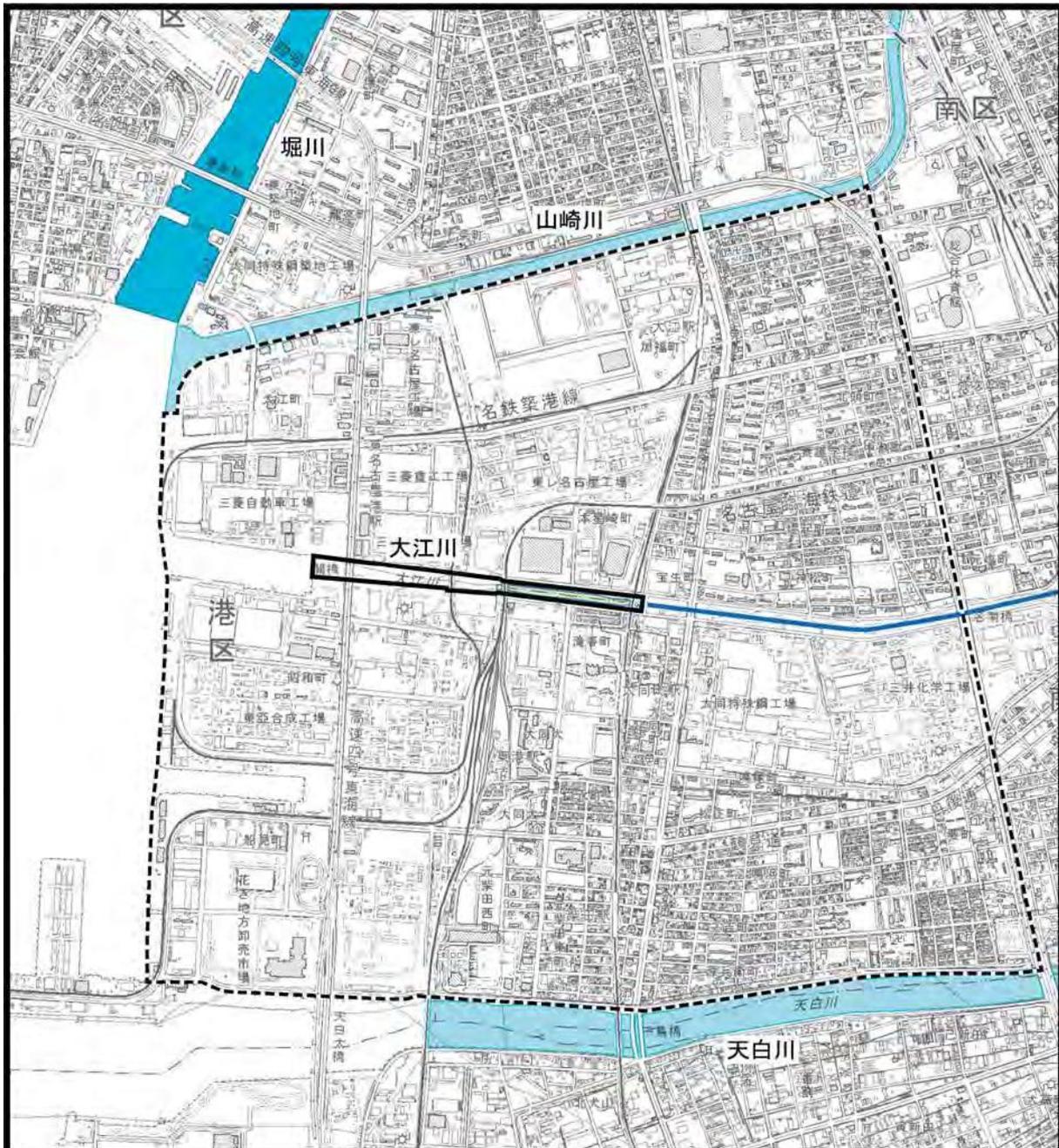
出典)「伊勢湾潮流図」(海上保安庁, 平成 16 年)

図 4-1-9(1) 伊勢湾の上げ潮時の潮流図



出典)「伊勢湾潮流図」(海上保安庁, 平成16年)

図 4-1-9(2) 伊勢湾の下げ潮時の潮流図



-  事業予定地
-  調査地域
-  1級河川
-  2級河川
-  普通河川
-  普通河川 (暗渠)



出典) 「河川図」(名古屋市緑政土木局, 平成 31 年)  
 「庄内川水系堀川圏域河川整備計画 (名古屋市策定)」(名古屋市ウェブサイト)  
 「山崎川水系河川整備基本方針 (名古屋市策定)」(名古屋市ウェブサイト)  
 「天白川水系河川整備計画 (愛知県、名古屋市策定)」(名古屋市ウェブサイト)

0 250 500m  
 1/25,000

図 4-1-10 河川図

## イ 水 質

### (7) 河川及び海域

調査地域及びその周辺における水質調査地点は図 4-1-11 に、調査結果は表 4-1-4 に示すとおりである。平成 30 年度の調査結果では、生活環境項目で環境基準もしくは環境目標値に適合していない項目がある。なお、健康項目は、測定項目の全てで環境基準に適合している。

また、名古屋港における平成 30 年度の溶存酸素濃度調査結果は表 4-1-5 に示すとおりである。

表 4-1-4(1) 水質調査結果（生活環境項目）[河川]

調査地点 項目	水域	堀川	山崎川	天白川
	地点名	港新橋	道徳橋	千鳥橋
	類型	D・生物 B	D・生物 B	C・生物 B
	区分	☆☆	☆	☆☆
pH	年平均値	7.2	7.1	7.3
	最小～最大	6.9～7.4	6.8～7.4	7.0～8.0
DO (mg/L)	年平均値	4.8	4.0	5.9
	最小～最大	2.5～6.7	1.5～6	3.6～10
BOD (mg/L)	75%値	4.2	3.2	2.9
	最小～最大	1.8～5.7	1.7～12	1.5～4.2
SS (mg/L)	年平均値	3	3	4
	最小～最大	1～9	1～6	1～10
全窒素 (mg/L)	年平均値	4.2	5.8	5.3
	最小～最大	2.6～5.3	3.0～8	3.6～7.8
全リン (mg/L)	年平均値	0.33	0.23	0.42
	最小～最大	0.22～0.49	0.14～0.31	0.32～0.54
全亜鉛 (mg/L)	年平均値	0.028	0.020	0.019
	最小～最大	0.017～0.043	0.011～0.032	0.014～0.028
ノニルフェノール (mg/L)	年平均値	0.00016	0.00010	0.00023
	最小～最大	0.00009～0.00023	0.00006～0.00017	0.00008～0.00051
LAS (mg/L)	年平均値	0.013	0.017	0.011
	最小～最大	<0.0006～0.0490	<0.0006～0.160	<0.0006～0.025

注) 1: 環境基準及び環境目標値は、資料-1 1 (p. 217) 参照。

2: 最小～最大は、日平均値の最小値、最大値を示す。

3: 類型について、「C 及び D」は pH、DO、BOD、SS に、「生物 B」は全亜鉛、ノニルフェノール、LAS に係る。

4: 「区分」は、名古屋市の水質汚濁に係る環境目標値に基づく地域区分を示す。

5: 赤字は、DO については環境基準の値もしくは環境目標値の値未満であることを、BOD、全亜鉛については環境基準の値もしくは環境目標値の範囲を超過していることを示す。

6: 「<」は、測定下限値未満であることを示す。

出典) 「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-4(2) 水質調査結果（生活環境項目）〔海域〕

調査地点 項目	水域	名古屋港	名古屋港	名古屋港
	地点名	潮見ふ頭北	N-1 潮見ふ頭西	M-1 ガーデンふ頭
	類型	C・IV・生物 A	C・IV・生物 A	C・IV・生物 A
	区分	☆	☆	☆
pH	年平均値	8.0	8.0	8.1
	最小～最大	7.6～8.5	7.3～8.8	7.5～9.3
DO (mg/L)	年平均値	7.7	7.3	7.7
	最小～最大	3.0～11	2.3～12	2.3～17
COD (mg/L)	75%値	2.8	3.7	3.1
	最小～最大	1.7～5.2	1.5～6.1	1.3～8.5
SS (mg/L)	年平均値	3	3	4
	最小～最大	1～6	1～12	1～15
全窒素 (mg/L)	年平均値	1.1	1.1	1.3
	最小～最大	0.83～1.4	0.75～1.6	0.76～2.1
全リン (mg/L)	年平均値	0.12	0.11	0.13
	最小～最大	0.07～0.17	0.055～0.17	0.056～0.23
全亜鉛 (mg/L)	年平均値	0.006	0.01	0.012
	最小～最大	0.003～0.012	0.004～0.02	0.003～0.024
ノニルフェノール (mg/L)	年平均値	<0.00006	0.00010	0.00008
	最小～最大	<0.00006	0.00010	0.00008
LAS (mg/L)	年平均値	<0.0006	<0.0006	0.0014
	最小～最大	<0.0006	<0.0006	0.0014

注)1:環境基準及び環境目標値は、資料-1 1 (p.217) 参照。

2:最小～最大は、日平均値の最小値、最大値を示す。

3:類型について、「C」は pH、DO、COD に、「IV」は全窒素、全リンに、「生物 A」は全亜鉛、ノニルフェノール、LAS に係る。

4:「区分」は、名古屋市の水質汚濁に係る環境目標値に基づく地域区分を示す。

5:赤字は、pH については環境基準の値もしくは環境目標値の範囲を超過していることを、DO については環境目標値の値未満であることを、COD、全窒素、全リンについては環境基準の値もしくは環境目標値の値を超過していることを示す。

6:「<」は、測定下限値未満であることを示す。

出典)「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-4(3) 水質調査結果（健康項目）〔河川〕

項目	調査地点	堀川	山崎川	天白川	環境基準
		港新橋	道徳橋	千鳥橋	
カドミウム	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003以下
全シアン	(mg/L)	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01以下
六価クロム	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.05以下
砒素	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01以下
総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	(mg/L)	ND	ND	ND	検出されないこと
PCB	(mg/L)	ND	ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
チウラム	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
シマジン	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
ベンゼン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
セレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	(mg/L)	0.76	0.91	1.65	10以下
ふっ素	(mg/L)	—	—	—	0.8以下
ほう素	(mg/L)	—	—	—	1以下
1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.05以下

注)1:「—」は、測定が行われていない項目である。

2:「ND」及び「<」は、測定下限値未満であることを示す。

3:「検出されないこと」とは、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

出典)「平成30年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-4(4) 水質調査結果（健康項目）〔海域〕

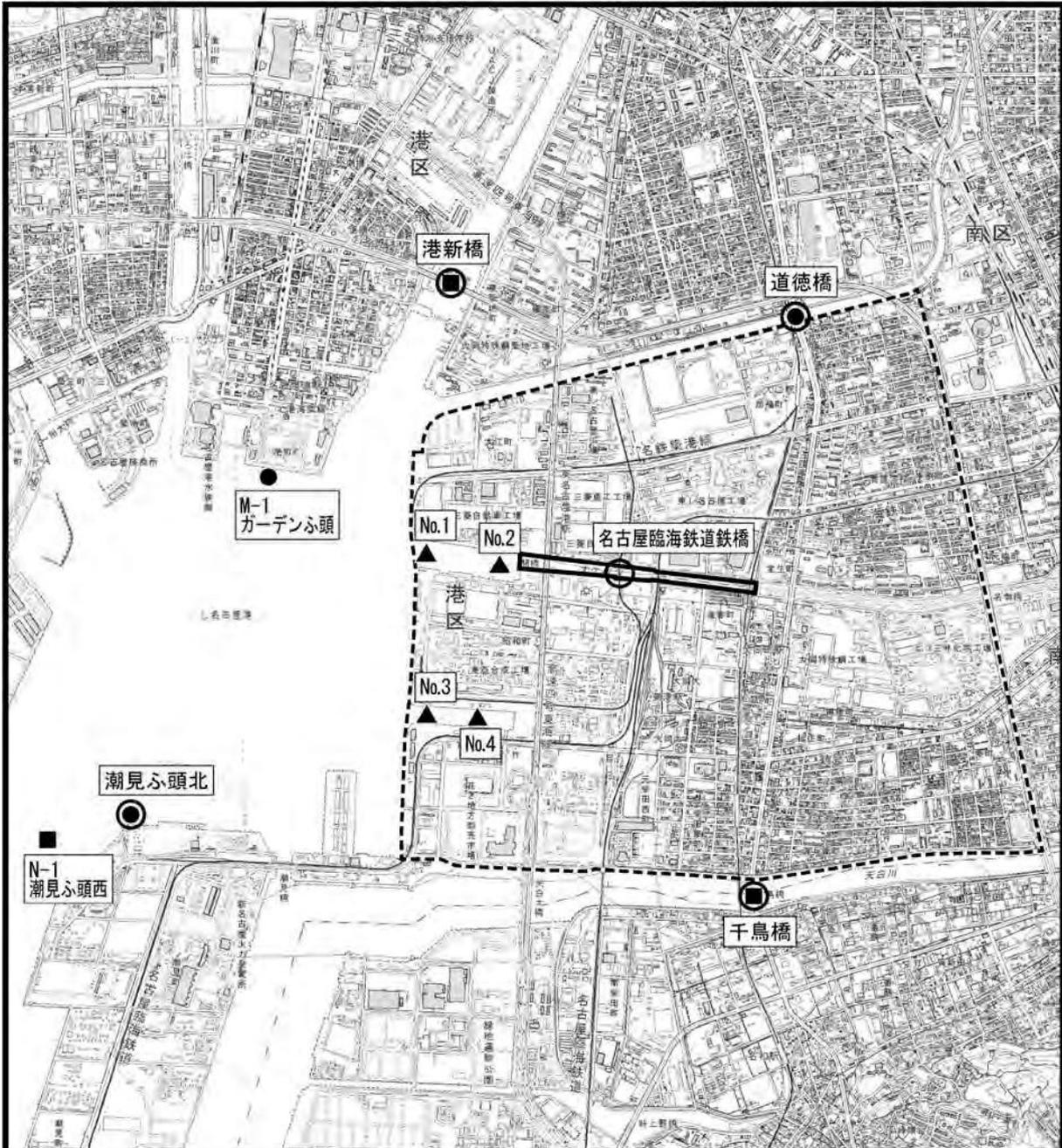
項目	調査地点	名古屋港	名古屋港	環境基準
		N-1 潮見ふ頭西	M-1 ガーデンふ頭	
カドミウム	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	0.003 以下
全シアン	(mg/L)	ND	ND	検出されないこと
鉛	(mg/L)	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム	(mg/L)	<0.01	<0.01	0.05 以下
砒素	(mg/L)	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	(mg/L)	—	—	検出されないこと
PCB	(mg/L)	ND	—	検出されないこと
ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	—	0.02 以下
四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	—	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	—	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.01	—	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	—	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.1	—	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	—	0.006 以下
トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	—	0.01 以下
テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	—	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	—	0.002 以下
チウラム	(mg/L)	<0.0006	—	0.006 以下
シマジン	(mg/L)	<0.0003	—	0.003 以下
チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	—	0.02 以下
ベンゼン	(mg/L)	<0.001	—	0.01 以下
セレン	(mg/L)	<0.002	—	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	(mg/L)	—	—	10 以下
ふっ素	(mg/L)	—	—	0.8 以下
ほう素	(mg/L)	—	—	1 以下
1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	—	0.05 以下

注)1: 「—」は、測定が行われていない項目である。

2: 「ND」及び「<」は、測定下限値未満であることを示す。

3: 「検出されないこと」とは、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

出典)「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)



- 事業予定地
- 調査地域
- 水質調査地点
- 水質・底質調査地点
- 底質調査地点
- ダイオキシン類調査地点

注) 本図面は、調査地域周辺の水質・底質の状況がわかるよう、調査地域及びその周辺(本図面枠内)の調査地点を示している。

出典) 「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」

(名古屋市ウェブサイト)

「平成 30 年版名古屋環境白書(資料編)」(名古屋市ウェブサイト)

「平成 30 年度大江川のダイオキシン類継続調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

「平成 30 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)



0 350 700m  
1/35,000

図 4-1-11 水質・底質及びダイオキシン類調査地点

表 4-1-5 溶存酸素濃度調査結果

単位：mg/L

調査地点	採取位置	平均	最小	最大
潮見ふ頭北	底層	5.9	3.0	9.5
	表層	8.6	6.3	11
	中層	6.8	4.2	9.6
N-1 潮見ふ頭西	底層	5.7	2.3	11
	表層	8.5	5.2	12
	中層	6.2	4.1	9.8
M-1 ガーデンふ頭	底層	5.4	2.3	11
	表層	9.2	6.1	17
	中層	6.3	3.6	12

注) 底層は海底上 0.5m、表層は水面下 0.5m、中層は水面下 5.0m で測定している。

出典)「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」  
(名古屋市ウェブサイト)

#### (イ) ダイオキシン類

ダイオキシン類の調査結果は表 4-1-6 に、調査地点は前掲図 4-1-11 に示すとおりである。調査地域及びその周辺におけるダイオキシン類の調査は、港新橋、道德橋、千鳥橋及び潮見ふ頭北で行われている。平成 30 年度の調査結果は、全ての地点で環境基準に適合している。

また、調査地域の報告対象事業場における排出水の測定結果は表 4-1-7 に示すとおりである。平成 30 年度の報告では、全ての事業場で排出基準を下回っている。

大江川では、平成 12 年にダイオキシン類による高濃度汚染が明らかになって以降、ダイオキシン類の調査が名古屋臨海鉄道鉄橋において行われている。平成 30 年度の調査結果は、年間平均値で 0.15pg-TEQ/L であり環境基準に適合している。

また、平成 12 年度～平成 30 年度におけるダイオキシン類の経年変化は図 4-1-12 に示すとおりである。名古屋臨海鉄道鉄橋の調査結果は、平成 16 年度以降は、平成 22 年度を除き環境基準に適合している。

表 4-1-6 ダイオキシン類調査結果 (水質)

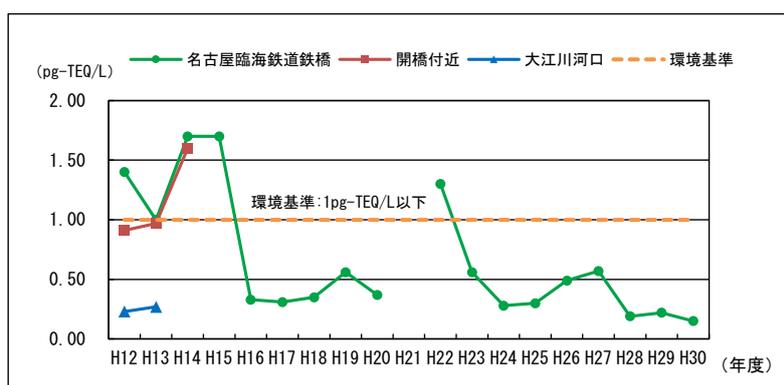
区分	調査地点	年間平均値 (pg-TEQ/L)	環境基準
河川	港新橋	0.061	1pg-TEQ/L 以下
	道德橋	0.033	
	千鳥橋	0.056	
海域	潮見ふ頭北	0.041	

出典)「平成 30 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-7 ダイオキシン類事業者測定結果（排出水）

事業場	測定結果 (pg-TEQ/L)	採取年月日	排出基準
中部リサイクル株式会社	0	H30.5.9	10pg-TEQ/L 以下
東亜合成株式会社名古屋工場	0.16	H30.8.30	
東レ株式会社名古屋事業場	0.090	H30.10.24	
名古屋市上下水道局柴田水処理センター	0.00080	H30.9.13	

出典)「平成 30 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)



注) 対策前の調査結果は、下表のとおりである。

単位: pg-TEQ/L

	H12.2.18	H12.4.14	H12.6.2
名鉄常滑線鉄橋付近	23	21	0.97
名古屋臨海鉄道鉄橋付近	-	-	25
開橋付近	3.8	1.6	6.0
大江川河口	-	-	0.57

出典)「大江川ダイオキシン類調査結果」  
(名古屋市ウェブサイト)

図 4-1-12 大江川におけるダイオキシン類（水質）の経年変化

## ウ 底 質

調査地域及びその周辺における底質調査地点は前掲図 4-1-11 に、調査結果は表 4-1-8 に示すとおりである。平成 30 年度の調査結果では、暫定除去基準の定められている PCB 及び総水銀は全ての地点で基準値を下回っている。

また、調査地域及びその周辺におけるダイオキシン類の調査結果は表 4-1-9 に示すとおりである。平成 30 年度の調査結果では、全ての地点で環境基準に適合している。

なお、大江川下流部における底泥の有害物質汚染状況については、「第 2 章 2-2(2) ウ 大江川下流部における底泥の有害物質汚染状況」(p.7 参照)に示すとおりである。

表 4-1-8(1) 底質調査結果

項目	調査地点	大江川河口域		昭和・船見ふ頭間運河	
		No.1	No.2	No.3	No.4
総水銀	(mg/kg)	1.1	1.4	1.2	4.5
PCB	(mg/kg)	0.23	0.80	—	—

注) 1: 「—」は、測定が行われていない項目である。

2: 暫定除去基準は、PCB は10ppm(mg/kg)、水銀(河川及び湖沼)は25ppm(mg/kg)である。

出典)「令和元年版 名古屋市環境白書(資料編)」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-8(2) 底質調査結果

項目	調査地点	堀川	天白川	名古屋港
		港新橋	千鳥橋	N-1 潮見ふ頭西
一般項目	pH	8.0	7.6	7.9
	COD	(mg/g) 13	12	46
	全硫化物	(mg/g) 0.25	0.74	1.0
	ヨウ素消費量	(mg/g) 10	13	20
健康項目	カドミウム	(ppm) 0.99	0.20	0.58
	全シアン	(ppm) <0.5	<0.5	<0.5
	鉛	(ppm) 42	21	42
	砒素	(ppm) 5.8	3.9	10
	総水銀	(ppm) 0.18	0.09	0.33
	アルキル水銀	(ppm) <0.01	<0.01	<0.01
	PCB	(ppm) 0.30	0.03	0.11
特殊項目等	フェノール類	(ppm) <0.1	0.1	<0.1
	銅	(ppm) 86	39	86
	亜鉛	(ppm) 270	130	240
	クロム	(ppm) 96	40	100
	全窒素	(ppm) 1,100	1,900	3,000
	全燐	(ppm) 430	360	560

注) 1: 「<」は、測定下限値未満であることを示す。

2: 暫定除去基準は、PCB は10ppm(mg/kg)、水銀(河川及び湖沼)は25ppm(mg/kg)である。

出典)「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」

(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-9 ダイオキシン類調査結果（底質）

区分	調査地点	調査結果 (pg-TEQ/g)	環境基準
河川	港新橋	54	150pg-TEQ/g 以下
	道徳橋	12	
	千鳥橋	4.1	
海域	潮見ふ頭北	15	

出典)「平成 30 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

## エ 地下水

調査地域及びその周辺における、地下水調査の結果は表 4-1-10 に示すとおりである。平成 30 年度の調査では、南区要町のクロロエチレンが環境基準に適合していない。

表 4-1-10(1) 地下水調査結果

調査区分	調査地点	概況定点	汚染井戸周辺地区調査		環境基準
		4 南区立脇町	34 南区滝春町	35 南区滝春町	
採水年月日		H30.11.29	H30.12.25	H30.12.25	
カドミウム	(mg/L)	<0.0005	—	—	0.003 以下
全シアン	(mg/L)	<0.1	—	—	検出されないこと
鉛	(mg/L)	<0.005	—	—	0.01 以下
六価クロム	(mg/L)	<0.01	—	—	0.05 以下
砒素	(mg/L)	<0.005	—	—	0.01 以下
総水銀	(mg/L)	<0.0005	—	—	0.0005 以下
アルキル水銀	(mg/L)	—	—	—	検出されないこと
PCB	(mg/L)	<0.0005	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	—	—	0.02 以下
四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	—	—	0.002 以下
クロロエチレン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	—	—	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.01	—	—	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	—	—	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	—	—	0.006 以下
トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	—	—	0.01 以下
テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	—	—	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	—	—	0.002 以下
チウラム	(mg/L)	<0.0006	—	—	0.006 以下
シマジン	(mg/L)	<0.0003	—	—	0.003 以下
チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	—	—	0.02 以下
ベンゼン	(mg/L)	<0.001	—	—	0.01 以下
セレン	(mg/L)	<0.002	—	—	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	(mg/L)	<0.10	—	—	10 以下
ふっ素	(mg/L)	<0.08	—	—	0.8 以下
ほう素	(mg/L)	0.02	—	—	1 以下

注)1:「<」は測定下限値未満であること、「—」は測定を行っていないことを示す。

2:環境基準欄の「検出されないこと」とは、全シアンについては 0.1mg/L 未満、アルキル水銀及び PCB については 0.0005mg/L 未満であることを示す。

出典)「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 4-1-10(2) 地下水調査結果

調査区分	汚染井戸周辺地区調査			環境基準
	36	37	38	
調査地点	南区白水町	南区鳴浜町	南区要町	
採水年月日	H31. 3. 13	H31. 3. 13	H31. 3. 13	
カドミウム (mg/L)	—	—	—	0.003 以下
全シアン (mg/L)	—	—	—	検出されないこと
鉛 (mg/L)	—	—	—	0.01 以下
六価クロム (mg/L)	—	—	—	0.05 以下
砒素 (mg/L)	—	—	—	0.01 以下
総水銀 (mg/L)	—	—	—	0.0005 以下
アルキル水銀 (mg/L)	—	—	—	検出されないこと
PCB (mg/L)	—	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン (mg/L)	—	—	—	0.02 以下
四塩化炭素 (mg/L)	—	—	—	0.002 以下
クロロエチレン (mg/L)	<0.0002	0.0009	0.0044	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン (mg/L)	—	—	—	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	—	—	—	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	—	—	—	0.006 以下
トリクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	0.01 以下
テトラクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	—	—	—	0.002 以下
チウラム (mg/L)	—	—	—	0.006 以下
シマジン (mg/L)	—	—	—	0.003 以下
チオベンカルブ (mg/L)	—	—	—	0.02 以下
ベンゼン (mg/L)	—	—	—	0.01 以下
セレン (mg/L)	—	—	—	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/L)	—	—	—	10 以下
ふっ素 (mg/L)	—	—	—	0.8 以下
ほう素 (mg/L)	—	—	—	1 以下

注)1: 「<」は測定下限値未満であること、「—」は測定を行っていないことを示す。

2: 環境基準欄の「検出されないこと」とは、全シアンについては 0.1mg/L 未満、アルキル水銀及び PCB については 0.0005mg/L 未満であることを示す。

出典)「平成 30 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)